

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 3 日現在

機関番号：34426

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25284140

研究課題名(和文) 東南アジア史における絶対年代と相対年代の統合に関する研究：7 - 10世紀を中心に

研究課題名(英文) A Study for Integration of Chronologies in the History of Southeast Asia,
Especially 7th to 10th Centuries

研究代表者

深見 純生 (Fukami, Sumio)

桃山学院大学・国際教養学部・非常勤講師

研究者番号：40144555

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,600,000円

研究成果の概要(和文)：7 - 10世紀の東南アジア史についての多分野・多地域横断的な編年の統合という最終目的には到達できなかったが、そのための基盤はかなり整った。第一に歴史学・刻文学・美術史学・建築史学・考古学という異分野の研究者間で問題意識の共有が進み、方法論および体系の相互理解が進んだ。第二に、編年統合のために必須の研究工具である2種の年表を作成した。紙版で1～2頁のもの9件と、その根拠となる資史料の提示を含む、非常に詳細なウェブ版年表である。

研究成果の概要(英文)：Although the aim of integration of “Relative Age” and “Absolute Age”-based Chronologies of Southeast Asia of 7th to 10th centuries has not yet fully attained, we have established foundations for it. First the participants of various disciplines obtained deeper understandings on other disciplines and also on other research areas in Southeast Asia. Secondly we have compiled two kinds of chronological tables which will be indispensable in order to reach our ultimate purpose: on one hand nine chronological tables on paper of each discipline and/or area on the other hand a massive all-inclusive table on web which houses very detailed data of each discipline and area.

研究分野：東南アジア史

キーワード：東洋史 考古学 美術史 建築史 東南アジア 編年

1. 研究開始当初の背景

当該期の東南アジア史研究の現状は、一方において従来の歴史学が編み出した編年の枠組みと、考古学、建築史、美術史などが独立した方法論でそれぞれ提起する編年の議論がうまくかみ合わず、他方において、考古学、建築史、美術史がそれぞれ提起する編年の議論相互の間にも整合性が欠如していると言つてよい。かくして、文献史学、美術史・建築史・考古学(とくに貿易陶磁研究)の研究成果を統合して歴史解釈の懸隔を埋める努力が必要になっている。

近年、各地域の内在的発展だけでは解釈不可能な地域間を連結した歴史現象が多く確認され始めている。すなわち、東南アジア全域での広汎な貿易陶磁の流通、東南アジア大陸部を中心としたドヴァーラヴァティー貨幣流通圏の成立、マレー半島からチャンパーへの建築文化の伝播、シャイレンドラ朝の活発な海域や大陸部への進出、古代ムラユ語の島嶼部における広汎な利用、インド起源でありながらもジャワを経由したカンボジアへの建築文化の伝播、各地で出土する観音菩薩像や三尊像に象徴される大乘仏教の繁栄などである。このことは、地域横断的な東南アジア史像提示の必要性を示している。

かくして、諸分野横断的かつ諸地域横断的な歴史研究が必要となっている。

2. 研究の目的

主として考古学、建築史、美術史が提起する相対年代とそれぞれの根拠を、文献史学(碑刻文を含む)が提起する絶対年代と対応させ、これら諸学問分野のすべてに通用する統合された編年の確立をめざす。

第一に、7世紀から10世紀にかけての東南アジアにおける文献史学(碑刻文を含む)、考古学、建築史、美術史それぞれの地域横断的な編年体系を作成する。それは他の分野の研究者にも利用可能であることを念頭において作成しなければならない。なかでも、中国陶磁などの貿易陶磁と在地土器編年の暦年対応の精度を高める。あわせて、各都城や建築遺跡、都市遺跡での出土資料研究による相対年代確定を行う。こうした建築遺跡における装飾美術やモチーフなどの年代確定を通じて、美術史編年との相互比較が可能となるであろう。また、近年の建築史や美術史新出資料の統合的利用も図る。碑刻資料では文字と文章自体の分析のみならず、考古学や美術史との共同研究により碑石自体とその装飾も様式比較の対象とする。

それぞれの分野が定義していた専門用語や時代区分の矛盾が明らかとなっているが、本研究の学際的議論形成の過程で、その解決を図ることができよう。研究分野間の矛盾の解消につながるだけでなく、相互に消化不良のまま参照し合う「ねじれたもたれあい」の関係の解消をめざす。

最終的には、各専門分野の研究者が相互に

利用できるような、絶対年代に対応した物質文化編年(多分野交差編年)を提出する。さらには、この編年に基づいて、歴史学・碑刻学・考古学・美術史・建築学など諸分野が有機的に結合した、ひとつの東南アジア史としての歴史叙述の可能性をさぐる。

3. 研究の方法

第一に、各分野ごとに編年(絶対年代と相対年代を問わず)を作成する。その基礎作業として文献・碑刻文は全文集成を行う。碑刻文では付随情報も極力集成する。他の分野も同様に基礎的情報を集成する。

都城や城郭での年代確定を目指した発掘研究と既存の陶磁器資料の再調査を行う。貿易陶磁編年と在地産陶磁・土器資料の編年精度を高め、都城遺跡、建築遺跡、大型遺跡の造営、拡張、修築、廃棄などに関する年代を検証する。美術史における彫像、青銅像、石造装飾の編年、建築史における年代比定と考古学からの編年の対照作業を行い、交差編年の作成をめざす。

ワークショップを通じて共通の編年のための共通認識を形成し、最終的に統合編年を作成する。

4. 研究成果

諸分野・諸地域横断的な東南アジア古代史の編年形成という最終目標には到達できなかったものの、そのための基盤はかなりよく整備された。3年間で11回(1泊2日~3泊4日)の研究会合を開き、そこでは60近い研究報告があり20回近い総合討論があった。あわせて3回の合同現地調査(カンボジア、チャンパー・扶南、ジャワ)をおこなった。こうした活動をとおして参加者内の多分野・多地域横断的なあるいは複合的な研究への基盤が形成された。

具体的な成果としては紙版報告書『東南アジア古代史の複合的研究』において東南アジア古代史を把握するための論考やその方法の試みを提示するとともに、主要な刻文史料を詳細かつ解説付きで紹介することができた。あわせて編年に関しては、分野別・地域別の重要事項年表9件を掲載している。もうひとつの重要な成果として、諸分野・諸地域横断的で詳細なつまり巨大なウェブ版年表を作成した。そこには漢籍原文や諸地域の刻文の悉皆リスト、美術作品、建築遺構、主要な考古学遺品の状況が含まれている。

研究会合や現地調査には科研メンバーだけでなく関心ある研究者の参加を促すとともに、任意団体の東南アジア古代史研究会を発足させて、研究の深化と多角化、情報の外部発信と共有に務めてきた。ウェブ版年表も近々同研究会のウェブサイト上で公表予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 25 件)

- (1) 深見純生、南海の崑崙再考、深見純生(編)『東南アジア古代史の複合的研究』(以下では『複合的研究』と略記する)、査読無、(2016) 13-25
- (2) 青山亨、東南アジアを中心とした古代仏教史(5世紀~8世紀)叙述のための覚書、『複合的研究』、査読無、(2016) 27-36
- (3) TABATA Yukitsugu, Chronological Framework of Ceramic Trading in Angkorian Cambodia、『複合的研究』、査読無、(2016) 37-49
- (4) 佐藤桂、山を降りた聖域 7世紀から10世紀におけるクメール都市の展開、『複合的研究』、査読無、(2016) 51-56
- (5) 原田あゆみ、ドヴァーラヴァティーの法輪文様の変遷、『複合的研究』、査読無、(2016) 57-73
- (6) 肥塚隆、中部ジャワ花綱文様の編年、『複合的研究』、査読無、(2016) 75-86
- (7) 深見純生、三転四起する扶南、南方文化、査読有、42号(2016) 79-90
- (8) TABATA Yukitsugu, Yuni SATO, SOK Keo Sovannara, Hiroshi SUGIYAMA, Preliminary Report of the Excavation of the Veal Svay Kiln in Cambodia: Feb 2013 - Dec 2013, *Bulletin of the Graduate Division of Letters, Arts and Sciences of Waseda University*、査読無、60-IV(2016) 57-68.
- (9) 下田一太・菅沢由希・米延仁志・田畑幸嗣、クメール古代都市イーシャナプラの都城区における活性期、東南アジア考古学、査読無、35巻(2015) 1-14
- (10) TABATA Yukitsugu, Recent Developments in Southeast Asian Archaeology, *Asian Research Trends New Series*、査読無、(2015) 59-75
- (11) 深見純生、15世紀のマジャパヒト、昭和女子大学国際文化研究所紀要、査読無、21巻(2015) 43-57
- (12) 深見純生、ジャワにおける王の神格化、桃山学院大学総合研究所紀要、査読無、40-1(2014) 81-100
- (13) FUKAMI Sumio, 'Indianization' and the Establishment of Monsoon Voyaging in Maritime Southeast Asia: An Examination of Faxian's Three Homeward Voyages, 国際文化論集、査読無、49号(2014) 21-44
- (14) TABATA Yukitsugu, The Banteay Kdei Temple: Preliminary report of the excavation at the Banteay Kdei temple, August 2012, *Le Renaissance Culturelle du Cambodge*、査読有、28号(2014) 77-101
- (15) TABATA Yukitsugu, The Banteay Kdei

Temple: Preliminary report of the excavation at the Banteay Kdei temple, August 2013, *Le Renaissance Culturelle du Cambodge*、査読有、28号(2014) 103-124
(16) 深見純生、タイ湾における暹の登場と発展、南方文化、査読有、40号(2013) 71-91

〔学会発表〕(計 68 件)

- (1) 深見純生、7世紀の東西回廊を行く、第11回東南アジア古代史研究会、2016.3.9、九州国立博物館
- (2) 田畑幸嗣、7~10世紀東南アジア史総合年表の完成報告と活用方法について、第11回東南アジア古代史研究会、2016.3.9、九州国立博物館
- (3) 肥塚隆、中部ジャワ期とチャンパーとの建築装飾比較の試み、第11回東南アジア古代史研究会、2016.3.10、九州国立博物館
- (4) 原田あゆみ・佐藤留実、大谷大学所蔵パーリ語貝葉写本の包裂について、大谷大学真宗総合研究所公開講演会「大谷大学所蔵タイ王室寄贈パーリ語貝葉写本の世界(招待講演)」、2016.3.17、大谷大学真宗総合研究所
- (5) 深見純生、8~10世紀の海域東南アジア文献から、第93回東南アジア学会、2015.6.1、愛媛大学
- (6) 西野範子、青山亨、木村淳、野上健紀、ベトナム南シナ海沖チャウタン海揚がりの資料の初歩的報告、第93回東南アジア学会、2015.6.1、愛媛大学
- (7) Noriko Nishino, Toru Aoyama, Jun Kimura, Takenori Nogami and Le Thi Lien, Nishimura Project: Tang Dynasty Chau Tan Shipwreck and 'Maritime Ceramic Route', The 3rd Congress of the Asian Association of World Historians, 2015.5.29, Nanyang Technological University, Singapore.
- (8) Katsura SATO, 3D Documentation at Ta Nei temple, 24th Technical Committee of the International Coordination Committee for the Safeguarding and Development of Angkor (ICC-Angkor), 2015.6.5, APSARA National Authority, Siem Reap, Cambodia.
- (9) TABATA Yukitsugu, Yuni SATO, Hiroshi SUGIYAMA, Sok keo Sovannara, Excavation of the Veal Svay Kiln No.1: Research of the Khmer Brown Glazed Stoneware, the 15th International Conference of the European Association of Southeast Asian Archaeologists, 2015.7.7, Universite Paris Ouest Nanterre la Defense, France.
- (10) 深見純生、ジャワの中心性 歴史と生態学、AA研フォーラム兼古代ジャワ語研修文化講演(招待講演) 2015.8.21、東京外国語大学AA研
- (11) 肥塚隆、ポロブドゥルとプランバナン 中部ジャワの二大遺跡、AA研フォーラム

兼古代ジャワ語研修文化講演（招待講演）
2015.8.28、東京外国語大学 AA 研
(12) AOYAMA Toru, Relevansi 'Opera Java'
sebagai karya film cerita Ramayana dan
potensi pemanfaatan naskah-naskah
untuk pengembangan ekonomi kreatif, 15th
International Symposium on the
Manuscripts of Nusantara, held by
MANASSA, 2014.9.18, Universitas
Andalas, Padang, West Sumatra,
Indonesia.
(13) Noriko Nishino, Toru Aoyama, Jun
Kimura, Takenori Nogami and Le Thi Lien,
Nishimura Project: The Oldest shipwreck
found in Vietnam: Testimony to the
Maritime Ceramic Route', International
Symposium on Underwater Archaeology in
Vietnam and Southeast Asia, 2014.10.15,
Quang Ngai City, Vietnam.
(14) Yukitsugu TABATA, Technical Aspects
of Khmer Ash-glazed Stoneware in Angkor
Region, 5th annual Conference on Special
Topics in Khmer Studies: People, Pots and
Places: New Research on Ceramics in
Cambodia, 2014.12.6, APSARA Conference
Hall, Siem Reap, Cambodia
(15) HARADA Ayumi, Intercultural and
Comparative Study on Buddhist Narrative
Art, Japan and Thailand Beyond
Boundaries: Understanding Two Countries'
Cultural Relations through Antiquities and
Living Museum. Cultural Exchange
Seminar, 2014.11.25、九州国立博物館
(16) AOYAMA Toru, Social Integration in
Majapahit as Seen in an Old Javanese
Court Narrative, The Second International
Symposium of Inter-Asia Research,
2014.3.9、東京、東洋文庫
(17) TABATA Yukitsugu, Indigenous
Stoneware Production and Trade Ceramics
Network in Angkor, The 20th Congress of
the Indo-Pacific Prehistory Association,
2014.1.14, Siem Reap, Cambodia.
(18) 向井 互, 14～18 世紀港市アユタヤの後背
地貿易 タイ中北部ピサヌロークの視点
から、東南アジア考古学会大会、2013.11.16、
昭和女子大学
(19) 青山 亨, 東南アジアのインド化再考、第
58 回国際東方学会議、2013.5.24、東京、
日本教育会館
(20) 深見純生, 漢籍にみる「インド化」再検
討、第 58 回国際東方学会議、2013.5.24、
東京、日本教育会館
(21) 田畑幸嗣, 移入、移植、ローカライゼー
ション メコン川下流域の「インド化」、
第 58 回国際東方学会議、2013.5.24、東京、
日本教育会館
(22) 原田あゆみ, 文化遺産と美術史 タイ、
東南アジア学会第 89 回研究大会、2013.6.2、
鹿児島大学

〔図書〕(計 9 件)

- (1) 深見純生(編) 桃山学院大学総合研究所、
東南アジア古代史の複合的研究(科学研究費
補助金研究成果報告書)(2016)、209 ページ
- (2) 青山 亨(共著) 東京外国語大学出版会、
多文化社会読本—多様な世界、多様な日
本、(2016)、264 ページ
- (3) 青山 亨(共著) 山川出版社、教育が開く
新しい歴史学、(2015)、223 ページ
- (4) 青山 亨(吉田ゆり子他編) 東京外国語大
学出版会、画像資料論：世界史の読み方、
(2014)、325 頁
- (5) 青山 亨(東京外国語大学東南アジア課程
編) 明石書店、東南アジアを知るための 50
章、(2014)、450 ページ
- (6) KOEZUKA Takashi(共著) Manohar,
New Delhi、China and Beyond in the
Medieval Period: Cultural Crossing and
Inter-Regional Connections、(2014)、450
ページ
- (7) 肥塚隆(乳房文化研究会編) 淡交社、乳
房の文化論、(2014)、326 ページ
- (8) 田畑幸嗣(新田栄治先生退官記念論集編集
委員会編) 同委員会、新田栄治先生退職記
念論集、(2014)、250 頁
- (9) 原田あゆみ(九州国立博物館編) TVQ 九
州放送・西日本新聞社、大ベトナム展公式カ
タログ・ベトナム物語、(2013)、450 ページ

〔その他〕

ホームページ
東南アジア古代史研究会
[http://www.f.waseda.jp/tabata-y/SSAAH/in
dex_SAAH.html](http://www.f.waseda.jp/tabata-y/SSAAH/index_SAAH.html)

6. 研究組織

- (1) 研究代表者
深見 純生(FUKAMI Sumio)
桃山学院大学・国際教養学部・非常勤講師
研究者番号：40144555
- (2) 研究分担者
青山 亨(AOYAMA Toru)
東京外国語大学・大学院総合国際学研
究院・教授
研究者番号：90274810
佐藤 桂(SATO Katsura)
独立行政法人国立文化財機構東京文化財
研究所・文化遺産国際協力センター・アソ
シエイトフェロー
研究者番号：80454198
田畑 幸嗣(TABATA Yukitsugu)
早稲田大学・文学学術院・准教授
研究者番号：60513546
原田 あゆみ(HARADA Ayumi)
独立行政法人国立文化財機構九州国立博
物館・学芸部企画課・主任研究員

研究者番号：20416556
向井 互 (MUKAI Ko)
金沢大学・国際文化資源学研究センター・
研究員

研究者番号：30625108

(3)連携研究者

肥塚 隆 (KOEZUKA Takashi)
大阪大学・その他部局等・名誉教授
研究者番号：90027988

(4)研究協力者

渡辺 佳成 (WATANABE Yoshinari)
岡山大学・社会文化科学研究科・准教授
研究者番号：80210962
浅湫 毅 (ASANUMA Takeshi)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博
物館・学芸企画部・教育講座室長
研究者番号：10249914